NPO法人 子どもアミーゴ西東京

アミーゴ通信

2016年
4月号
（新筍号）

「これまでの10年、
これからの10年」

Contents

10周年記念行事開催
アミーゴ施設のご紹介

まりいただき、全部で52名が参加しました。関係者のリレートークでは、設立当初の関係者のお話、現在の職員からのお話など、アミーゴの「これまで」と「これから」をつなぐ機会になったのではないかと思います。

＊

今回の周年行事の開催については、実行委員会を立ち上げて10月18日にキックオフ会議をしたものの、なかなか準備が進まず、ご案内が遅れてしまいました。当日ご参加いただいた会員の皆様、協力していただいた職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

（田中誠）

講演会アンケートのご意見より

講演会について

- いい先生になる、が目標だったら、子どもは手段になってしまうという言葉が印象に残った。
- どのエピソードもマニュアルではない、木村先生の「考え」「学び」「経験」からの生の声で心に深く届いた。
- いじめとかDVとか、難しい問題を一人で抱えるということでなく、皆で一緒に考えればいいんだと、心が軽くなった。
- 子どもに関わる仕事をしている一人として、勇気と覚悟と元気の種をたくさんもらった。
- 木村先生という個人が作るのではなく、学校はパブリックなもの、みんなで作るという話を改めて心に留めたい。
- 「多様性こそ進化の原動力」という言葉が印象に残った。
- 大人が自分を大切に、楽しんで生きていかないと、子どもに生きる楽しさや命の大切さを伝えていけないだと、自分の事を見直す機会になった。

アミーゴについて

- この町に生まれ育った人たちが、自分が親になった時に、やはりこの町で子どもを育てたいという町にしていくという姿勢がステキだと思う。
- 障がいのある児童にとって、放課後の居場所は大きな課題。アミーゴさんも頑張って。
- 市内であった児童虐待事例への市民活動レベルでの対応を風化させることなく、進むことを期待する。内容から見ても、市民活動として取り上げる事の大変さは理解できるが、児童虐待を地域問題、社会問題として考えるキッカケ作りをお願いします。これは10年の活動があるからこそできると思う。
- わが子は学童クラブを利用する予定はない。良さそうな活動をしているようで気にはなるが、学童を利用しない家族にとっては、接点があるのか良くわからない。学童を日常的に使う必要はないけれど、という層が利用できる場があればよい。

アミーゴと地域の子ども環境の「これから」を見すえて

子どもアミーゴ西東京は、2006年1月の創立から10周年を迎えました。この機会に10年の歩みを振り返るとともに、アミーゴをもっとたくさんの方に知っていただこうと、2月28日（日）に西東京市民会館にて10周年記念行事として講演会と懇親会を開催しました。

■木村泰子氏講演会

講演会には、映画「みんなの学校」の舞台となった大阪市立大空小学校の元校長で、この映画にも出演されている木村泰子氏をお呼びしました。木村氏は、教師が良い教師になろうとすることは子どもを手段として用いることであり、それよりも、子どもの姿をまずしっかり見るべきだと言われます。そして、教師時代に地元で起きた高校生の自死事件について自分たち教師一人一人に責任があるとした上で、そこまで子どもを追い込む過程で周りの大人がそれを知りながら止めなかったことを指摘し、そうした事態を目にした時にそれを「止める」大人になってほしいと言われました。地域の大人を「サポーター」として学校運営に参加してもらっている例を挙げ、みんなで「作っていく」ことはとても楽しいことだと説明されました。

講演会は大幅に時間を超過してしまいましたが、講演会後のサイン会でも一人一人に声をかけられていたのが印象に残っています。参加者からは、大変良かった、子どもの姿をじっくり見ることが大切とわかった、子どもたちの環境を守るためには様々な大人が関わることが必要と感じた等の感想が寄せられました。

■ご後援・ご協力・参加者

なお、この講演会については、西東京市、西東京市教育委員会、西東京市社会福祉協議会のご後援をいただき、当日も、西東京市丸山市長、西東京市社会福祉協議会池田事務局長、西東京市児童青少年課齋藤課長にご臨席いただきました。また、講演会にあたって「みんなの学校西東京上映実行委員会」の皆さんのご協力で、1万枚以上のチラシを市内に配布することができました。おかげさまで353人の来場者がありました。講演会に先立つ映画の上映会からの一連の活動を通じて、上映会実行委員会の皆さんを始め、これまで学童クラブやアミーゴとあまり関わりのなかった方にも広くアミーゴの事業を知っていただく機会になりました。このつながりを今後の活動の中でも大切にして行きたいと思います。

■懇親会

また、講演会に続いて懇親会を開催しました。アミーゴの会員、アミーゴの活動にご協力いただいている皆さんにお集

北原学童クラブ

子どもも大人も元気な学童！

★ケンカも話し合いも仲間のきずな

北原学童クラブは様々な小学校から子ども達が通ってきます。今年度は５ヶ所の小学校から子ども達が通って来ており、登所する時間も様々ですが、学童の仲間同士の結束がとても高いのが特徴です。それは、小学校から遠い場所にある北原学童クラブへの長い道のりを協力して帰って来たり、日々学童で遊ぶ中でたくさんケンカや話し合いをしたりする中で、少しずつ培われてきたものだと思います。

北原学童クラブでは､これから何をして遊ぼうか、意見が割れてしまったときにどう解決していくかを、子ども達同士で話し合う事をとても大事にしてきました。

そこでは様々な意見が出ます｡｢Ｓケンやりたい！今すぐ！｣｢えー、野球がいい｣｢メチャドッチもやりたい｣皆一人ひとり違う意見がでる中で、時には譲ったり、時間で遊びを分けたりと、子ども達はたくさんの事を考えて話し合いをします。大好きな遊びのことなので、皆真剣です。時にはどうしても話がまとまらず、ケンカになってしまう事もありますが、そんなやりとりを繰り返して行く中で、子ども達はお互いの事をより深く知り、自分の事も知ってもらうことで、学童クラブが安心していられる「居場所」になるのだと私達指導員は思っています。

★活発な父母会

そんな北原学童クラブの子ども達は元気いっぱいで、毎日楽しい声が尽きない学童クラブですが、元気なのは子ども達だけではありません。父母会さんも非常に活発で、年に３回ある共催行事は毎回とても盛り上がり、大人も子どもも楽しめる行事になっています。

特に年度の最後におこなった卒所式・進級を祝う会では、子ども達と父母会さんから予想外のサプライズもあり、学童に関わる人たち皆で盛り上げていくという雰囲気が根付いています。

是非みなさんも一度北原学童クラブへ遊びに来てください。きっとたくさんの元気が貰えると思います。

（川杉祐太）

谷戸学童クラブ

せまいながらも楽しい生活

★普段の遊びのようす

谷戸第二小学校の北側の道の角にある、２階建てのオレンジ色のかわいらしい建物、それが谷戸学童クラブです。４月１日に 24 名の元気な新入所児を迎え、現在は 70 名の子どもたちが、放課後の生活を送っています。

＊

子どもたちは学校から帰って来ると一階の育成室では宿題をしたり、本を読んだり、お絵かきや工作、ラ・キュー、ボードゲームなどで遊びます。今、谷戸の男の子たちの中では「斬！サムライソード」というカードゲームが人気で、学校から帰って来ると「サムソー！（このゲームの略称）」と叫びながら、夢中になっています。

２階のホールでは、カプラ積みやドミノ倒し、くみくみスロープというおもちゃで遊んだり、なわとびや大学おとしというボール遊びで体を動かすこともあります。小さいホールですし、外の庭も思い切り体を動かせるような広さがないことが悩みですが、谷戸学童クラブでは狭い空間でも楽しめるベーゴマやけん玉、なわとびなどの遊びが根付いています。今年は子どもの人数も多いので、今まで室内で行っていたベーゴマを天気のいい日は庭で行いたいと考えています。

また昨年度は谷戸第二小学校の校庭に皆で出かけて思い切り遊ぶ機会を作りました。今年度も継続していきたいと考えています。

★安全と楽しさを守る

せまい建物の中で、子どもも大人もお互いケガのないように安全に過ごすにはいろいろなルールが必要ですが、谷戸学童クラブでは４年生が中心になって、自分たちの学童を作っていくという意識が受け継がれています。帰りの会で４年生が中心になって大人の話を聞くように注意しあったり、みんなの前に立って司会をしてくれて、指導員は子どもたちにたくさん助けられています。

子ども自身が考えながら楽しく過ごせる学童の生活を作っていけるよう、職員一同も気持ちを一つにして、取り組んでいきたいと思っています。

（鈴木豊子）

向台学童クラブ

2015年4月に74名の子ども達を迎え、学童生活の中で様々な経験をし、なかまに支えられながらありのままの感情を大切にして自分の物語を作ってほしい、と願いをこめて次の年間テーマのもと向台の1年がスタートしました。

なかまとネコバスに乗って！大空へ！
～一人ひとりの物語づくりのぼうけんの旅へ～

～向台の1年間～

カイセンドン・夏休み

夏には3学童の遊びの交流大会「カイ・セン・ドン」で子ども達がギュッと団結し、見事優勝！他にもプレーパーク遠足・4年生特別企画のナイトハイク・四倉交流会等、様々な行事を通し、一人ひとりが自分らしい物語を作りました。

だがしや楽校

向台学童クラブでは「向台ネコバスや～大空～」を4年生が中心になって出店をしました。1・2・3年生もマンカラ台や写真立て作り等頑張って準備を進めました。当日は4年生がみんなの気持ちのこもった作品をリヤカーで向台公園まで運び、大きな声で呼び込みをし、販売や火起こし等の体験コーナーを行いました。

4年生合宿

向台学童クラブの一大イベントの一つ、4年生合宿。
4年生はずっと憧れだった合宿へと、1・2・3年生に壮行会で見送られて出発しました。合宿の2日間、魚釣り・料理作り・ドラム缶風呂等、何をするにも4年生はずっと目を輝かせ笑顔が溢れていました。そして、夜には満天の星空の下お家の人から、感謝の気持ちがこもったあたたかいサプライズの手紙も…。一人ひとりが誰かに支えられて生きていること、仲間の大切さ、そして家族の大切さを知った合宿になり、4年生同士の絆が更に深まりました。

大事にしてきた事

学童は毎日楽しいことばかりではありません。時には友達とぶつかり悔し涙を流すときもありました。でもその度自分の気持ちとしっかり向き合い、葛藤し、そしてなかま同士励まし合ってきました。学童で過ごしたいくつもの経験を大事にして、ありのままを受けとめてくれるなかまを大切に一歩一歩、歩んで行ってほしいと思います。

そして1年が経ち、
出会いと別れの春がまた来ます。。。

この1年間応援してくださった保護者の方々や地域の皆さん、アミーゴ関係の皆さん本当にありがとうございました。皆さまに支えて頂き向台の大きな絵本は描き切れえない程素敵な物語でいっぱいになりました。

～これからも、向台のぼうけんの旅は続く～

（向台学童クラブ職員一同）

向台第二学童クラブ

遊びから学ぶ子どもたち

★いつもたくさんの笑顔

向台第二学童クラブの子ども達は、明るく、元気な子ども達です。大人は、そんな子ども達が大きな声で「ただいま」と笑顔で帰って来る姿に支えられながら共に過ごしています。

子ども達が帰って来ると「Ｓケンやろうぜ」「かたきやろうぜ」と遊びの輪がどんどん広がり、すぐに学童は笑い声でいっぱいになります。しかし、遊びに真剣になりすぎて「今の反則だ」「線から出た」「アウトだ！」「セーフだ！」とケンカになってしまうこともあります。しかし、そんな時はみんなで話し合いをし、解決をしてきました。

遊びや話し合いの中で仲間の事を知り、お互いを理解しながら子ども達は共に生活しています。

みんなで学童がどうしたら楽しくなるのか？　みんなが安心して過ごせるのか？　一緒に考えています。４年生を中心に自分たちの力で、自分たちの学童を作っていく姿があり、子ども達の力は無限大だと感じています。

★子どもと大人のささえ合い

保護者の方々との共催行事では、子ども達のためにと、子ども達と一緒に火おこしをしてマシュマロを焼いたり、本気になって学童の遊びを楽しんだり、子どもも大人も笑顔いっぱいの行事になっています。行事を行うたびに保護者の方々とのつながりが深くなってきたように思います。保護者の方々には、いつも温かいお言葉を頂き、たくさんの方々に支えられていることに感謝しています。

１年間を通して、笑って、泣いて、ケンカしながら子ども達はいろんなことを学び、日々少しずつ成長しています。そんな成長を近くで感じることができ嬉しく思っています。

これからも、学童が、子ども達にとって安心して楽しく過ごせる場所になるように、保護者の皆様、地域の皆様と一緒に手つなぎをし、より良い学童を作っていきたいと思います。　（中西結香）

共催行事「新入生歓迎会」火おこしのようす

ベーゴマのようす

ひばりが丘第一学童クラブ

子どもの達成感を大切に

★卒所と進級を祝う会から

３月 13 日の日曜日、ひばりが丘第一学童クラブの卒所と進級を祝う会があり、子どもたち、保護者、指導員みんなで４年生の卒所と１年生から３年生、５年生の進級を祝いました。

会のなかでは、４年生を送るセレモニーや子どもたちからの遊びの出し物発表、父母会さんからのプレゼント交換がありました。遊びの出し物は、４年生会議のなかで「どんな遊びを披露したいか」「どんな内容だったら１年生も参加しやすいか」「見ているお父さんお母さんが楽しめるか」など何度も話し合いを重ねて、子どもたちが、しゃてき・カプラ積み・宝探し・ぞうきんがけレース・なわとび・ベーゴマの６つに決めました。

当日、どの出し物も担当の子どもたちが中心となって司会進行をしながら、みんなの前で披露！　カプラ積みやぞうきんがけレース、なわとびの発表では指導員やお父さんお母さんの飛び入り参加もあり、育成室のなかは、「おぉ～！　すごい！」「がんばれ～！」と大きな歓声と笑顔に包まれました。最後のベーゴマ対決は「せーの！　せーで！　ちっちのちっ !!」とみんなの声がひとつになり、迫力のある戦いに大人も子どもも大盛り上がりでした。

出し物発表全体を通して、４年生を中心に子どもたちの『みんなで楽しみたい』という優しい思いがたくさん伝わってくる温かい会になりました。そして、学童クラブでの子どもたちの日頃の遊びの様子や雰囲気をお父さんお母さんに知ってもらい、一緒に子どもたちの成長を祝うとてもいい機会となりました。

これからも子どもたち自身が、みんなが楽しむことのできる学童クラブにしていくためにはどうしたらいいのか、自分だけでなく、周りの友達のことも考えて話し合う機会を作り、ひとつのことをみんなでやり遂げる楽しさや達成感を味わう経験を大切にしていきたいと思っています。

★大規模学童での安全確保

ひばりが丘第一学童クラブには現在 92 名の子どもたちが在籍しています。

市内でも人数のとても多い大規模学童クラブとして、私たち指導員は子どもたちの安全を確保するために工夫しながら保育にあたっています。

主な取り組みとしては、指導員の声が聞こえやすいようにマイクを使用したり、日々の生活の中でもおやつの時間を分けたりしています。しかし、時折子どもたちから「部屋がうるさくていやだ」という声や「遊ぶものが使われてしまってない」といった声も挙がっています。その中で、少しでも子どもたちの声を聞き『安全で安心できる学童をどのように作っていくのか』子どもたちや保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思います。　（宮崎翠）

子ども忘年会での集合写真

ひばりが丘第二学童クラブ

卒所生へプレゼント

子どもたちの成長を実感する時

★１年間のしめくくり―卒所と進級を祝う会

折り紙の発表をする子どもたち

３月６日、日曜日。そこにはたくましい卒所生たちの姿がありました。１人１人、様々なドラマがあった４年間。今日は旅立ちの日です。在所生たちの真剣な眼差しの先で、卒所生が１人ずつ学童での思い出を語ります。「デイキャンプでキュウリのたれを作って美味しかった！」「他の学年とサッカーしたのが楽しかった！」思い出の１つ１つが懐かしさと、子どもの成長を感じさせました。

セレモニーが終わると次は遊びの紹介タイム。日頃の学童での遊びをお父さんお母さんに披露します。カンゴマをはじめ、カプラの早積み競争、大縄跳びなど保護者の方々も巻き込んだ出し物に会場中が大盛り上がり!!　その中の折り紙の作品発表での１コマ。学童随一の折り紙の達人の４年生の女の子と１年生の女の子の発表。「私が発表したいー」といって聞かない１年生の女の子の思いを汲み取り、「じゃあ困ったら手伝ってあげるね！」と４年生の女の子。本番前になり緊張からか、「発表したくない。」と言い出す１年生でしたが、お姉さんがそばにいてくれたから最後まで発表できました。頼りになるお兄さんお姉さんがいなくなるのは寂しいけど、「発表したい！」という気持ちで前に突き進める１年生の姿にも頼もしさを感じた遊びの紹介タイムでした。

ハイレベルな技を決める子ども、自信を持って自分の作品を紹介する子どもたちを見て、保護者の方々からは「日頃の様子が知れてよかったです。子どもの成長に驚きました。」「遊びの発表を見て、子どもたちみんな上手でビックリしました！！　心温まる卒所式でした。来年も出席させたいです。」などの声。これからも子どもたちの成長を保護者の方々と一緒に見守っていきたいなと強く感じた１日になりました。

★大規模保育で子どもの安心安全を守る

現在、ひばりが丘第二学童クラブは、96名の元気な子どもたちが日々、過ごしています。人数が多く、マイクを使用しなければ、子どもたちに指導員の声が通らなかったり、子どもたちが一斉に登所した時は、出欠確認や下所時間の把握に時間と大人の手を取られたりしている現状があります。子どもたちにとって安心安全でかつ楽しい学童の生活を保障するためには、どうするべきか日々指導員で話し合っております。

人数が多いなかではありますが、学童らしい異学年でのつながりを子どもたちに大切にしてもらいたく、おやつの時間には班で当番を決めてもらったり、お誕生日会や子ども忘年会、ハロウィンなど行事を通して、他のお友達との関係づくりが出来るきっかけを作ったり、アリーナやグリーンフィールドでは上級生、下級生が交ざって遊んでいたりと学童クラブらしい光景もたくさん見られます。

（浦林真大・岡崎拓弥）

日々の育成室のようす

アリーナで泊まる海賊キャンプ

ひばりが丘児童センター

幅広い年代による交流の場

早いもので、ひばりが丘児童センターの運営も5年目となりました。年間利用者は、のべ10万人と昨年度よりもさらに増え、より一層地域密着型の大型施設となりました。

年間を通じての定例行事として、乳幼児親子向けには年齢別の子育て支援活動や保護者向けの工作教室・育児相談などを実施し、保護者同士が繋がることができる環境づくりを行っています。

また、おいもほりイベントなど地域と親子が一体となる取り組みも行っています。

たくさんの出会い、たくさんの経験から、子どもたちに様々なことを感じ取って成長してほしいと思っています。子どもたちの持っているたくさんの「力」。
一人ひとりが笑って泣いて…。そんな子どもたちの姿を職員一同、全力でサポートしていきたいと思います。

2～5か月の乳児対象BPプログラム

ようじのつどい 新聞プールで宝探し♪

矢ヶ崎農園さんにおいもほりに出かけました！ いっぱいとれたね♪

小・中高生年代向けには、スポーツ、工作、料理など様々な切り口で、地域や年代を超えて多くの子どもたちが集まる事ができるような活動をしています。同時に、チアダンスクラブやクッキングクラブなど、年間を通したクラブ活動を行い、より深く仲間作りができるような取り組みも行っています。センターまつり、流しそうめん、ハロウィンなど、地域を巻き込んでの行事を行い、より子どもたちが地域に溶け込めるよう働きかけています。更に、都内近郊の中高生年代向けの児童館の利用者による自主企画イベントの開催など、中高生特化型施設との交流も深めています。

グリーンフィールド一面を使って水あそび

約120名参加！　ヒバリンピック

今年度初の試みでおこなった中高生デイキャンプ

（鳴海麗子）

アミーゴ施設一覧

北原学童クラブ
〒188-0003　西東京市北原1-16-2
　北原児童館内
TEL/FAX：042-451-2020

谷戸学童クラブ
〒188-0011　西東京市谷戸町1-22-10
TEL/FAX：042-421-1661

向台学童クラブ
〒188-0013　西東京市向台町3-1-45
TEL/FAX：042-463-0123

向台第二学童クラブ
〒188-0013　西東京市向台町3-1-45
TEL/FAX：042-464-2600

ひばりが丘児童センター
〒202-0001　西東京市ひばりが丘3-1-25
TEL/FAX：042-465-4540

ひばりが丘第一学童クラブ
TEL/FAX：042-465-9480

ひばりが丘第二学童クラブ
TEL/FAX：042-465-9482

アミーゴの活動を支えてください。

10周年を迎えた子どもアミーゴ西東京は、活動や事業の土台となる財政基盤の確保のため日夜努力をしています。しかしながら、その収入のほとんどを市からの委託金で賄っているのも現状です。地域のすべての子どもたちのために、という大きな目標に向かい活動を継続するためには、皆さんからのご支援がこれからも欠かせません。
どうか、今後ともご支援賜りますよう、お願いいたします。

【支援方法】

1）ボランティアとして活動に関わる
　私たちがおこなうイベントや活動に、ボランティアとして関わってください。

2）会員になる
　私たちの活動や考えに賛同いただけたら、会員になってください。会費は年3000円です。イベントのお知らせや「アミーゴ通信」などをお送りいたします。

3）寄付をする
　直接的な活動への関わりはできなくても、共感や応援の気持ちを「寄付」という形で表していただけるだけでも、私たちには大きな力となります。

振込先：郵便振替：記号番号　00130-0-555814
　　三菱東京UFJ銀行　東松原支店（319）口座番号：3743180
口座名義：特定非営利活動法人　子どもアミーゴ西東京
☆詳しくは、事務局までお問い合わせください。
　→TEL 042-478-0056　メール info@kodomoamigo.org

特定非営利活動法人
子どもアミーゴ西東京

特定非営利活動法人
子どもアミーゴ西東京

http://www.kodomoamigo.org/

〒188-0004 西東京市西原町 1-5-13-101
TEL/FAX：042-478-0056
E-mail：info@kodomoamigo.org